

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 清水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

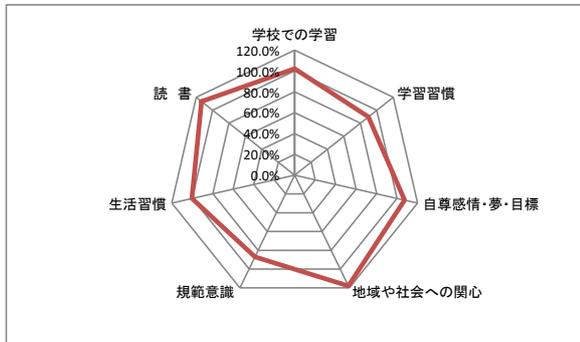
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には、どの領域も全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	報告文で図表やグラフを用いた目的をとらえる問題や説明文を読み取ったことを的確に書き表す問題	
	努力が必要な問題	漢字を問う問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的には、どの領域も全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	図形領域の図形の性質に着目する問題や加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題	
	努力が必要な問題	棒グラフからA量は、B量の何倍かを読み取る問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>地域での催しや祭りに積極的に参加し、関心が高い。また、読書好きな児童が多い。</p> <p>「学校のきまり」を守っていると答えた児童が全国平均に比べて、少ない。しかし、実際は規範意識が低いわけではなく、きまりを守って落ち着いて生活をしている。家庭学習については、取組時間が全国平均に比べると少ないが、徐々に家庭学習への意識が高まってきている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

スクールプランから授業改善の方策としてペアやグループの話し合う活動を多く設定し、自分の意見をきちんと述べ、友達の意見を取り入れることができるようにする。また、漢字練習を積み重ねられるように工夫し、ミニテストなどを繰り返す。算数科では、グラフの読み取り問題を多く取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「家庭学習チャレンジシート」を活用し、毎日回収して点検し、励ます。